

横浜市立駒林小学校

平成31年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○問題解決に向けて自ら工夫し、主体的に取り組む子を育てます。(知)	
○自他の思いや相互のかかわりを大切にする子を育てます。(徳)	
○自他の生命を尊重し、健康でたくましい子を育てます。(体)	
○学校や地域に愛着を持ち、自分にできることを考えながら行動する子を育てます。(公)	
○進んでさまざまな人やものとふれあいながら、社会への視野を広げる子を育てます。(開)	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	基礎基本の定着を図り、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 重点研の授業研究を通して「自他のよさを認め合い、豊かに表現できる子の育成」を目指した学習活動の中で、自分と他者が主体的に関わり合うことで、子どもたちの力を更に伸ばし高めていくことができるよう取り組んでいく。 学力・学習状況調査のデータをもとに「学力向上アクションプラン」を作成し、授業改善に取り組む。
担当	研究推進	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に横浜市の平均を上回っている。しかし、学年によってばらつきがあるが学習意識や生活意識が下回っている。「わかる」楽しさ、「できる」喜びを実感できる主体的な学習を追究し、子どもたちの思いや考えを大切にしていくことで、自己有用感を高めていく必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：国語の語句、言葉遣いなどの言語事項は概ねよくできているが、説明文などの内容を把握することがやや弱い。朝読書など読書に親しむ時間を今後も設けて、引き続き力を伸ばしていく。
- 算数科：算数の表現・処理、知識・理解の観点で力がついているが、数学的な考え方にやや弱さが見られる。また学年が進むにつれて、学習事項の活用や探求意欲については個人差がある。
- 社会科：ほとんどの観点で市平均以上であるが、体験した事柄についてよく理解している。
- 理科：ほとんどの観点で市平均以上であるが、特に観察・実験した事柄についてよく理解している。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

- 全学年とも落ち着いて学習できるようになってきているが、各学年・学級に様々な課題をもった子どもがいるので特別支援的な対応が必要になっている。
- 6年生が全校の中心として様々な場面で活躍できる環境が整い、全校の中心になるという自覚をもって活動している。しかし、全学年を見渡すとコミュニケーション力に課題が見られる。
- 教職員相互が支え合い、共に研鑽し合う土壌がある。相互のコミュニケーションも図れ、校内研究会や運営部会では全員が意見を言い合うことができる。

3 平成31年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 教科学習については、指導・改善が必要と考えられた領域や観点について重点的に指導していく。
- 「勉強が好き」「勉強が分かる」という児童が更に増えるよう、楽しい授業分かりやすい授業づくりを進める。
- 生活習慣の形成について保護者と連携して改善に努める。

2 学年

- 教科学習については、指導・改善が必要と考えられた領域や観点について重点的に指導していく。
- 生活習慣の形成について保護者と連携して改善に努める。
- 児童一人ひとりが意欲をもって活動したり、達成感を味わったりできるような教育活動を行っていく。

3 学年

- 教科学習については、指導・改善が必要と考えられた領域や観点について重点的に指導していく。
- 授業で積極的に自分の考えが発表できるよう、コミュニケーション能力を高め、学級でなんでも言える雰囲気を作っていく。
- ノートやプリント等ははていねいに書くように指導していく。

4 学年

- 主体的に学ぼうとする姿勢を育てるために、児童の持つ疑問を大切に、自ら学びたくなる授業づくりを進める。
 - 基礎・基本については概ねよく理解しているので、既習事項を使って活用していく力を伸ばしていきたい。そのための授業を工夫・改善し、児童が興味関心をもち、自ら考える授業を展開していく必要がある。

5 学年

- 学習の導入を大事にしていき、児童が学びたい、取り組んでみたいという気持ちをもたせていきたい。また、学習の中で学ぶことの意味を知らせていく。
- 算数を含めた全ての教科、場面において、互いの考えを伝え合う活動を行う。

6 学年

- 各教科、領域及び学校・学級活動を通して、人とコミュニケーションをとる機会を充実する。
- 体験的な取り組みをしっかりと学習と結びつけ、知識を理解できるようにする。
- 子ども自身が見通しをもって学習していけるよう、学習計画の立て方を工夫する

個別支援学級

- 社会的自立を意識しながら、社会的スキルやコミュニケーション能力を引き出すような指導を行っていく。
- 朝のぐんぐんタイムでプリントやドリルを使い、読み書き、計算の力を身につける。
- 学校図書館を利用する回数を確保し、読書の習慣を身につけ、知りたいことを自分で探す自力解決の機会を設ける。